

平成19年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事	業	名	介護予防のためのハーモニックケア指導士養成教育システム プログラム開発	
法	人	名	学校法人 福岡YMCA学園	
学	校	名	福岡YMCA国際ホテル・福祉専門学校	
代 表 者	理 事 長 齊 藤 皓 彦		担 当 者 連 絡 先	宮田 公英 TEL:092-831-1771
<p>1. 事業の概要</p> <p>高齢化が加速の一途をたどる現代、「介護」にかかる経費の削減に重きが置かれるようになってきた。平成18年度には介護保険制度の改正により、「介護」から「介護予防」へと方針の転換が行われ、本校ではそれに伴い、平成18年度専修学校教育重点支援プランとして、高齢者になじみの深い「音楽」を介護に取り入れた介護予防プログラムの開発と人材の養成を行ってきた。本年度は「ハーモニックケア指導士養成プログラムの実用性を高めるため、介護専門学校学生、および音楽専門学校学生を対象とし、通常の専門学校の授業として並行して人材の育成を行った。また同時に、介護、音楽専門学校それぞれに対するカリキュラムと教材の開発を行った。さらに当事業の実用性について、平成18年度の事業により「介護をベースとしたハーモニックケア」の効果は実証されているが、音楽を専門とする人材がハーモニックケアプログラムを行った際にも効果が得られるものであるのか実習先の施設職員に調査をした。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p style="margin-left: 20px;">①目的・重点事項の達成状況</p> <p>本事業は、専門学校において「ハーモニックケア指導士」を育成し、同時に育成のためのカリキュラムと教材を開発する目的で実施された。事業においては各分科会の開発研究に基づき、カリキュラム、テキスト、ビデオ・CD教材が開発された。人材育成の点においては受講した学生からや、実習先の施設からもおおむね高い評価が得られており、効果的な育成がほぼ達せられた。テキストや教材に関しても、介護予防事業に携わる人々からすでに「ぜひほしい」との意見が多数寄せられており、効果的な教材開発ができたと言えよう。これらのことから、本事業の主たる目的は達成できたといえる。</p> <p style="margin-left: 20px;">②事業により得られた成果</p> <p>本事業では、ハーモニックケア指導士養成のための教育システム(カリキュラム、テキスト、教材ビデオ、eラーニングソフト)を開発した。カリキュラムは介護・医療の専門家や音楽専門学校の講師等をメンバーとした実施委員会委員、分科会委員の意見から、介護を学ぶ専門学校生、音楽を学ぶ専門学校生、双方の視点から「ハーモニックケア」に必要とされる知識や技術が獲得できるように構成されており、全84コマ、126時間のカリキュラムとなっている。テキストはこのカリキュラムに対応した内容となっており、通常テキストに加え、実際に音楽を使用したプログラムを実践するための音楽CD教材を含んでいる。教材ビデオは「ハーモニックケア」とは何かという本義的な説明と、これまでの成果・課題に加え、今後、本事業に期待されることなど、認識を深めるための内容で、全部で3本作成された。また、eラーニングのための教材についても、サーバー上で運用するためのソフトを開発した。</p> <p style="margin-left: 20px;">③今後の活用</p> <p>本事業で確立された「ハーモニックケア指導士養成研修」の教育システムは、介護に携わる人材に音楽研修を、音楽に携わる人材に介護研修を行っていく形式のものである。今後も、介護現場で働く人材だけでなく、音楽の現場で働く人材をも対象に研修を行い、介護職のスキルアップおよび介護予防サービスの質の向上を目指し、高齢化社会における介護に関わる人材の能力、裾野を広げていく。また、介護現場のニーズに合った人材を育成するだけでなく、音楽を通じて介護現場の潜在的なニーズ、いわゆるウオントを掘り起こすことで、新たな雇用の創出につなげていく予定である。</p>				

④次年度以降における課題・展開

今回は、介護分野の学生に音楽の基礎を、音楽分野の学生に介護分野の基礎を研修したが、全体的にみると、カリキュラム全体の軸が、介護分野の知識に傾いていた感があった。すなわち、介護分野の学生にとっては、身近な「音楽」を介護に活かすスキルを学ぶことで、介護サービスの質だけでなく、介護職に対する意識の向上もみられ、改めてハーモニックケアのカリキュラムの有効性が実証されたが、一方で、「介護」が身近ではない音楽分野の学生にとっては、研修にやや取り組みにくい点があったようにみえた。今後は、「ハーモニックケア指導士」として養成するためのシステムをさらに高度化するとともに、汎用性、一般性を高め、「介護」と「音楽」を同レベルにまで身近に感じられることのできるようなプロセスを創造することが重要となる。そのためにも、今年度、取り組んだeラーニングソフトの更なる開発や、設備に関係なくどの施設でも使用できる音楽CD教材の拡充に努めていきたい。そうすることで、「ハーモニックケア」をより幅広いものへと発展させていきたいと考えている。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

音楽分野の専門学校生が研修した介護事業所における介護予防や音楽に関する取り組みの現状、雇用についてのニーズ等を調査したほか、音楽専門学校における「ハーモニックケア」のニーズと、より介護現場の実情に即した人材育成のためのカリキュラムを開発するという目的でアンケート調査を実施した。調査の結果、介護事業所においては、音楽への取り組みを希望していることが明らかになったほか、音楽専門学校においても、音楽を利用した介護プログラムの教授について前向きな姿勢であることがわかった。

②カリキュラムの開発

介護分野の専門学校生に「音楽」の基礎を、また、音楽分野の専門学校生に「介護」の基礎を学習してもらい、音楽を用いた介護予防プログラムを実施できる人材として要請するという狙いでカリキュラムを開発した。介護、医療の専門家や音楽専門学校であるミュージック音楽院講師等から、「ハーモニックケア」に必要なと思われる事項を提案してもらい、それらの事項を全て組み込んだ内容のカリキュラム(84コマ、126時間)を作成した。カリキュラム内容は、介護分野の学生に関しては「ハーモニックケア」に必要な介護に係る講座のほか、リズムトレーニングや、音楽史、音楽基礎理論など、音楽に関する研修に多くの時間を費やした。また、音楽分野の学生に関しては、口腔機能向上のための講座や回想療法等、介護に関する研修に時間を割いたほか、高齢者向けに楽曲を作成するなど、自らがもつ音楽技術を利用した新たな取り組みをカリキュラムの一環として組み込んだ。

③実証講座

「ハーモニックケア指導士養成研修」の有効性を実証するため、東京と福岡の2都市において実証講座を行った。福岡YMCA国際ホテル・福祉専門学校においては、介護を学ぶ学生が「ハーモニックケアプログラム」を学び、また、東京ミュージック音楽院においては、音楽を学ぶ学生が「ハーモニックケアプログラム」を、平成19年11月28日から、平成20年2月29日まで、週2日のペースで受講した。受講生は29名で、うち修了したのは18名であった(修了できなかった受講生は、実習や就職活動が多忙で、調整が難しくなったため)。受講生は、各々、専門分野は違うものの、音楽と介護が密接に結びついた「ハーモニックケア」のプログラムを学ぶうちに、多分野の重要性や楽しさを実感するようになった。研修を終えた際には、各学校の学生から、音楽を有効に使う方法について学べたこと、より深い介護の知識を得ることができたことについて喜びの声が寄せられた。

④その他

本事業は介護予防に「音楽」を活用することで、高齢者が「楽しく」「継続できる」という効果を狙っている。また、効果的な介護予防のために、介護に関するより専門的な知識・技術が獲得できるカリキュラム構成を目指したほか、音楽に携わる専門学校生に、介護の方法を学ばせることで、これまでの介護分野にはない考え方、視点を取り入れることを目的とした。実証講座を通して、福祉専門学校、音楽専門学校の双方から、これまでになかった「ハーモニックケア」のプログラムに対して、「楽しかったし有効であった」、「ぜひ継続していきたい」等の声が聞かれ、「楽しさ」「継続性」の両面で狙いを達成した。また、音楽専門学校の学生には、介護の基礎を研修してもらっただけでなく、高齢者が楽しめる楽曲の作成等を手がけてもらい、高齢者施設での現場実習においても参加率の低かったレクリエーションの参加率が高まるなど、「ハーモニックケア」の担い手、受け手の双方に自主性の向上がみられ、その有効性が実証された。こうした成果が得られた理由のひとつに、研修全体を通して「対象者のニーズに合わせる」ことを徹底したことがある。音楽業界では「聴衆のニーズに合わせた音楽」を提供することが必要であるし、介護業界においても「利用者の心身の状況に応じたサービス」を提供することが必要となる。これに加え、ただ言われたことを遂行するのではなく、「どうすれば、高齢者が楽しく過ごすことができるか」という課題を音楽を通して解決しようとしたことで、介護・音楽分野の双方で受講した学生に「独創性」が加わり、それが自主的な人材と継続的なプログラムを創出する結果となった。